

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース



女子個人組手1・2回戦の全景

天皇盃・皇后盃・内閣総理大臣杯

### 第52回全日本空手道選手権大会

### 第3回全日本空手道団体形選手権大会



2020東京オリンピック競技大会で国民に夢と勇気を与えた清水希容さん・荒賀龍太郎さん・喜友名諒さん（左から）に感謝状が贈呈された



8日午後には、海上自衛隊東京音楽隊が「栄光の架橋」など3曲を演奏して会場を盛り上げた



ホーチミンで起きた武道の熱波

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团

ĐOÀN ĐẠI DIỆN VÕ ĐẠO NHẬT BẢN PHÁI CỬ ĐỀN VIỆT NAM NĂM 2024

ĐẠI HỘI TRÌNH DIỄN  
VÕ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM



日本武道演武大会 in ベトナム





①②③ワークショップ（剣道、弓道、柔道）  
 ④武道演武大会で拍手を送る大勢の観衆

武道演武大会での相撲体験会

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团は昨年11月6日から12日まで同国ホーチミン市に派遣された。現地では、ホーチミン市体育師範大学、ホーチミン日本人学校、グエンズー・スポーツセンターで、演武会・武道体験会等をそれぞれ実施した。各演武会では多くの観客・参加者が集まり、団員の研ぎ澄まされた技の数々に大きな歓声が上がった。

本事業（主催）日本武道館・日本武道協議会）は、日本とベトナム社会主義共和国が外交関係樹立50周年を迎えたことを機に、ホーチミン市各国友好組織連合会の招聘により、同市において日本の伝統文化である武道の真髄を披露し、武道の国際的理解と普及振興を図り、日本とベトナム両国の友好親善に寄与することを目的として実施された。代表团は、高村正彦日本武道館会長を団長として、現代武道9種目、古武道3流派（天然理心流、剣術・無比無敵流、杖術・琉球王家秘伝本部御殿手）、プロジェクト事務局の総勢70名で編成された。世界各国に武道団を派遣する日本武道館の海外派遣事業として、5年ぶりの実施となった。

**結団式・壮行会（11月6日）**

午後2時、結団式・壮行会が千葉県成田市のホテル日航成田で開かれ、団員のほか、川端達夫日本武道館理事長、日本武道協議会の役員、各道連盟の代表者が出席した。はじめに団員全員の名前が呼称され、派遣団が結団された。

次に川端理事長から「武道は、武士道の伝統に由来する日本で体系化された運動文化で、心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、人間形成の道です。派遣団は、このことをベトナムの皆さんに知っていただき広めていただく、たいへん大きな役割を担っています。短い期間ですが、皆様方が素晴らしい成果を上げて、立派に帰国されることを心から祈念しております」と壮行の言葉を述べた。続いて高村団長が「現代武道9種目、古武道3流派の一流の先生方・選手が集まり、たいへん頼もしく思っています。日本とベトナムは、外交関係樹立50周年を迎え、政治・文化・経済とも非常に良い関

係です。皆さんが武道の真髄を示すことで、この関係はこれからの50年にわたってさらに良くなると期待しています」と挨拶を述べた。

その後、真砂威全日本剣道連盟副会長の発声で乾杯を行い、歓談に移った。最後に吉川英夫日本武道館常任理事・事務局長が自身の拍子木を使った三本締めで会を締めくくった。

団員は成田空港午後5時50分発の便で日本を出発し、午後10時37分（現地時間、以下同様）にベトナム・タンソンニャット国際空港に到着。空港から出ると、熱帯夜のような気温と湿度に団員からは「あつといない」と言葉が漏れた。

宿泊先のホテルニッコサイゴン（ホーチミン市）に到着後、事前に輸送した武具の引き渡しが行われ、団員たちは翌日に備えた。

**記者発表（11月7日）**

高村団長と各道代表者は、在ホーチミン日本国総領事館の小野益央総領事と共催団体のホーチミン市各国友好組織連合会のホー・スアン・ラ

ム副会長同席のもと、各武道演武大会開催周知のため、ホーチミン市文化観光スポーツ局で地元メディア11社を集めて記者発表を行った。

地元メディアには派遣の主旨や概要がまとめられた大会プログラムなどの資料が配布され、高村団長、ラム副会長、小野総領事の挨拶の後、質疑応答が始まった。

記者からの「日本で武道を習っている人は減っているのでしょうか」との質問に対して、高村団長は「日本では、子どもの数が少なくなつて

おり、大変苦勞しておりますが、十数年前に中学校の体育授業で武道が必修化されました。すべての中学生が何らかの武道に触れることになりました。そういう意味では全体的に武道人口が減っていることはないと思っております。これからもいろいろな工夫を行い、日本だけではなく、世界にも武道を広めていきたいと考えています」と答えた。また、

「今後スポーツ・文化交流の事業はありますか」と問われると、小野総領事は「今後、デモンストレーション・交流を具体的に予定してはおりません。ホーチミン市では剣道・空手道などの団体が活発に活動していますので、このような団体の行事で参加・挨拶をするなどの交流は行われています。武道に限らず、日本文化の祭典として2025年の3月に第10回ジャパンベトナムフェスティバルがホーチミン市で開催されます。日本の音楽・ファッション・コスプレなどの若者の文化、食文化を紹介する行事を行いますので、ご来場いただければ、両国交流のとても良い機会になると思っております」と述べた。



記者発表の様子

## 武道文化セミナー（11月7日）

午後1時30分、ホーチミン市体育師範大学で武道文化セミナーが開催された。同大学は体育の教員を養成している。会場となった体育館の観客席600がすべて埋まり、武道に関する興味の高さが感じられた。

開会式では高村団長、グエン・ケイ・ビン同大学評議会議長が挨拶を行った後、高村団長からビン評議会議長に記念品の贈呈が行われた。



①高村団長（右）からビン評議会議長に記念品が贈られた②講道館柔道の歴史について講演を行う岡田団員（柔道）③学生からの質問④⑤演武（少林寺拳法、弓道）⑥⑦ワークショップ（なぎなた、無比無敵流杖術）

次に柔道の岡田弘隆おかだひろたか団員による「講道館柔道の歴史」と題した講演が行われた。岡田団員は嘉納治五郎師範が技術と理論を組み立て、今では200以上の国と地域が国際柔道連盟に加盟していることを説明した。加えて、嘉納師範は、柔道修行の目的は、攻撃・防御の練習によって身体を鍛練して強健にし、精神の修養につとめて人格の完成をはかり、社会に貢献することであると示されたこと

を習う際の年齢制限はあるか」など、質疑応答では「日本では柔道に習う際の年齢制限はあるか」など、質問があった。

予定時間では収まらないほどの質問があった。

続く演武会では、はじめに弓道の演武が行われた。観客は演武者の立ち居振る舞いに集中し、しんと静まっていたが、巻藁まきわらに矢が放たれると、会場は一転して大きな歓声と拍手につつまれた。その後、各道が趣向を凝らした内容の演武を披露。途中で、ベトナムの武道であるボビナムの演武も行われた。演武会後のワークショップでは、興味深そうに武具に触れたり、団員とポーズを取って

記念写真を撮る学生なども見受けられた。

## ウェルカムパーティー

午後6時30分からは日本国総領事館公邸で領事館主催のウェルカムパーティーが開かれた。

はじめに小野総領事、高村団長が挨拶で登壇。次に高村団長から本派遣事業に協力したベトナム関係者に記念品の数々が贈呈された。

乾杯はおちよこを使った粋な計らい。団員たちは公邸の食事に舌鼓を打ちながら、武道セミナーを振り返りつつ歓談にふけた。



高村団長（左）から小野総領事に鏡獅子が贈られた

武道交流演武会（11月8日）



児童の技を受ける小田嶋氏（手前左・柔道の体験会）

午後1時15分、ホーチミン日本人学校の体育館で小・中学生約660名が見守る中、武道交流演武会が開催された。開会式は同校の豊嶋俊彦校長の歓迎のことばで始まり、演武種目の紹介、日本の国歌斉唱の後、主催者挨拶として高村団長が「若い皆さんに、日本の伝統文化である武道を紹介する機会をいただきましたことを何より嬉しく思います。日本を代表する一流の指導者や選手の先生方



合気道の体験会

が日本の伝統文化である武道の真髄を披露いたします」と述べた。演武は床と畳の両面で2種目同時に実施され、児童・生徒らは各道6分間の演武を熱心に見入り、各道の演武が終わるとそのまま体験会が行われた。柔道では、世界ジュニアで優勝経験のある小田嶋（旧姓・根崎）裕子氏が同校の教員となっている縁から団員に加わり、一緒に演武を披露した。演武の間に設けられた休憩時間には、「習い事のテニスをやめて、武道をやりたい」という意見も出るなど、早速、影響を受ける児童も現



演武納めは空手道

れた。最後の演武種目である空手道では技が決まる度に歓声が上がりが、終了の「礼」では拍手喝采となった。閉会式では、児童・生徒の代表挨拶で生徒会長の藤井大河さんが「海外にいるため武道に関わることが少ない私たちが、関心と憧れを持つことができた貴重な経験となりました」と述べた。続いて、同校の金子哲也教頭から閉会のことばがあり、武道交流演武会は締めくくられた。終了後も余韻冷めやらず、一部の児童・生徒が団員にサインを求める光景が見られた。

交流稽古会（11月9日）



銃剣道（交流稽古会）



少林寺拳法（交流稽古会）

柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法・銃剣道は、現地支部や地元修行者との交流・指導稽古をそれぞれの場所で実施した。

**武道演武大会 (11月10日)**



弓道 KYUDO



柔道 JUDO



剣道 KENDO



相撲 SUMO

午後1時30分、ゲンズー・スポーツセンターで本事業最大のイベントである武道演武大会が開催された。入場料は無料で、入り口で演武大会に出場する種目や事業の案内が掲載されたプログラムが配られた。

開会式では、両国の国歌斉唱の後、高村団長が「日越外交関係樹立50周年を迎えたことを機に、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市に日本武道代表団を派遣し、日本の伝統文化である武道の真髄を披露できますことを、大変喜ばしく思います。現代武道9道と古武道3流派の磨きぬかれた代表的な演武をご披露しま

すので、ぜひ皆様に日本武道の心と技を肌で感じとっていただきたいと思いを述べた。次にホーチミン市各国友好組織連合会のラム副会長が「武道家たちは熟練した技術のみならず忍耐力や不屈の志を伝えてくれます。このイベントが若い世代にとって伝統を探究するきっかけとなり、現在私たちが持つ貴重

で文化的な価値の保存とさらなる促進に寄与することを願っています」と述べた。続いて在ホーチミン日本国総領事館の小野総領事が「日本武道の理念は心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養い、国家・社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道であるそうです。この理念は調



空手道 KARATEDO



銃剣道 JUKENDO



天然理心流剣術 TENNENRISHINRYU-KENJUTSU

武道演武大会 ĐÀI HỘI TRÌNH DIỄN  
VÕ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM



合気道 AIKIDO



なぎなた NAGINATA

和を重んじ、平和と繁栄を希望するベトナム国民とも分かち合えるものと思います」と挨拶を述べた。

会場には約2500名が詰めかけて観客席は満員となり、一時、立見も出る盛況ぶりとなった。

演武は弓道を皮切りに始まった。会場が静まり返るなか、矢が的を射貫く小気味良い音が響き渡ると、大きな拍手と歓声が湧き起こった。各演武の様子は場内に設置された大型スクリーンに映し出され、ベトナム語で簡単な内容解説が行われた。一方、今回取り入れられた地元の武道修行者の演武（柔道・剣道・空手道・合気道）では日本語で解説が行われた。各演武が終わると惜しめない拍手が送られた。また、最後の演武種目である相撲の後には、相撲体験会が実施された。ベトナムの子どもたちが大きな体の相撲団員に複数人で力を合わせて立ち向かう姿が注目を集め、会場からは大きな歓声が起こった。

すべての演武が終了し、閉会式に移った。高村団長から「両国の関係がこれからの50年に向けてもっと良い関係になるように、ここに

## ワークショップ他 Workshop etc



①相撲体験を観覧し、笑みを浮かべる役員・来賓。  
 (一列目・左から) ホーチミン市各国友好組織連合会  
 ドー・ヴィエット・ハー会長、小野総領事、高村団長、  
 ホーチミン市越日友好協会フィン・ティン・ニャン会  
 長、各国友好組織連合会ラム副会長②③④ワークシ  
 ョップ(少林寺拳法、天然理心流剣術、銃剣道)⑤配布  
 された大会プログラムをめくる来場者⑥ワークシ  
 ョップ(琉球王家秘伝本部御殿手)⑦大会を取材する現  
 地の報道機関⑧⑨地元武道修行者の演武(柔道、剣道)  
 ⑩会場となったグエンズー・スポーツセンター



無比無敵流杖術 MUHI-MUTEKI-RYU-JOJUTSU



琉球王家秘伝本部御殿手 RYUKYU-OUKEHIDEN-MOTOBU UDUNDI



少林寺拳法 SHORINJIKEMPO

※大会のアンケート調査結果を239〜240ページに掲載  
 しています。

る皆さん全員で協力してまいりま  
 よう」と閉会のことを述べた。  
 次にワークショップに移り、観客  
 それぞれが興味を持った武道のも  
 へ行き、武道体験をした。柔道や空  
 手道は事務局が用意した道着を実際  
 に着ての体験となった。大勢の参加  
 があり、演武場は多くの人で溢れ  
 た。言葉の壁はあるものの、ボデイ  
 ーランゲージなどで通じ合い、参加  
 者らは楽しそうに武道を体験し、武  
 道の可能性が感じられる一場面が見  
 られた。



ラム副会長（右）の挨拶（フェアウェルパーティー）

### ■フェアウェルパーティー

10日の夜には本事業に携わった関係者を招き、ホテルニッコロサイゴンでフェアウェルパーティーが行われた。高村団長、小野総領事の挨拶の後、ラム副会長が乾杯の発声を行い歓談へと移った。団員たちは種目を越えて演武会の成功を喜び合い、記念撮影をするなど親密な様子が見られた。また、高村団長が各武道団体のもとへ行き、<sup>おまじり</sup> 勇い言葉かけた。中締めは、<sup>てらちたわじ</sup> 剣道の寺地種寿団員が務め、万歳三唱で締めくくった。

### 表敬訪問（11月11日）

午後2時より高村団長は小野総領事同行のもと、ホーチミン市人民委員会を表敬訪問し、ヴォー・ヴァン・ホアン副委員長が出迎えた。

高村団長は「日本とベトナム社会主義共和国は、昨年外交関係樹立50周年を迎えました。これを機に、日本の伝統文化である武道を披露できましたことは、大変意義深く、嬉しいことでもあります。昨日開催された演武会では、貴国の皆さんに日本武道の真髄をご覧いただき、喜んでい

ただけたものと確信しております」と挨拶をした。

ホアン副委員長は「ベトナムと日本の関係は包括的パートナーシップに格上げされてから、ますます良好になっています。日本武道代表団の皆さんが日本の伝統的な武道をホーチミン市で紹介していただき、両国の国民がより理解を深めることができました。文化交流を通じ、歴史・伝統などへの理解が深まり、とても有意義なことと思います」と応えた。

その後、高村団長は記念品として<sup>かぶと</sup> 兜を贈呈し、ホアン副委員長からは高村団長にホーチミン市の経済発展

に関する本が贈られた。

### ■市内視察

午前11時30分から統一会堂、戦争証跡博物館、中央郵便局を巡り、ベトナムの歴史を学ぶ市内視察を行った。

### ■夕食会（解団）

市内レストランで行われ、はじめに高村団長が挨拶に立ち、その後、小野総領事の発声で乾杯を行い、歓談へと移った。夕食会の途中、各道代表者による1分間スピーチがあり、本派遣事業を振り返った。最後は、無比無敵流杖術の根本憲一団員が挨拶を述べて夕食会を締めくくりに、解団となった。

### ■帰国

夕食会後、団員はそのままバスに乗りしてタンソンニャット国際空港へと向かった。午後11時40分、一行はベトナムとの別れを惜しみつつ離陸。台風の影響を受けて大きく迂回したことで、予定より30分遅く、12日の午前7時過ぎ（日本時間）に羽田空港に到着。団員たちはおのおの帰路に就いた。

（文責：日本武道館プロジェクト事務局）



ホアン副委員長（右）に兜を手渡す高村団長



ホーチミン市人民委員会

# 日本武道代表团团员一览

DANH SÁCH ĐOÀN VIÊN THAM GIA PHẢI ĐOÀN VŨ ĐẠO NHẬT BẢN TẠI VIỆT NAM

- 【团长】** 高村正彦（日本武道館会長）
- 【日本武道館プロジェクト事務局】** 白石哲也、鈴木智也、大倉優貴
- 【柔道】** 岡田弘隆（八段）、川原久乃（六段）、石川美久（六段）、横山喬之（六段）、加藤光将（六段）、六郷雄平（三段）
- 【剣道】** 寺地種寿（範士八段）、奥森貞雄（教士八段）、佐藤国隆（教士七段）、後藤将史（教士七段）、長濱直弥（錬士七段）
- 【弓道】** 廣實佳祐（錬士六段）、木川寿真（錬士五段）、小阪飛星（錬士五段）、小越智就（錬士五段）、池下大翔（五段）、萩野太郎（初段）
- 【相撲】** 新垣翔太（三段）、羽生健人（三段）、佐藤貴規（三段）、藤田大智（三段）、奥知久（三段）、櫻井雄基（二段）
- 【空手道】** 草野勝（教士七段）、桑子和也（教士七段）、久下敦司（五段）、菊地凌之輔（三段）、岡本拳（二段）、北澤以進（二段）
- 【合気道】** 藤巻宏（七段）、日野皓正（六段）、中村仁美（四段）、高田雄生（二段）、畠山光子（二段）、石山琢真（二段）
- 【少林寺拳法】** 荒井章士（正範士七段）、加藤明（准範士六段）、加藤利彦（大拳士六段）、加藤智弘（大拳士五段）、宇野真里奈（正拳士四段）、高橋明日香（正拳士四段）
- 【なぎなた】** 音成柱子（錬士）、尾形美和（教士）、森田美穂（教士）、黒木靖恵（五段）、西田智香（四段）、田口真耶（四段）
- 【銃剣道】** 川見清（教士八段）、工藤幸徳（教士七段）、渡邊和行（教士七段）、近藤英治（教士七段）、菅野学（教士七段）、小野雄大（教士七段）
- 【天然理心流剣術】** 平井正人（宗家）、常田貞行（教士）、小林恵子（教士）、須田英宏（教士）
- 【無比無敵流杖術】** 根本憲一（宗家 15 代）、谷啓二（免許皆伝）、村木浩治（師範）、沢幡伸男（師範）
- 【琉球王家秘伝本部御殿手】** 新崎文子（達士八段）、本部直樹（教士七段）、本部朝豊（四段）、下地修（四段）
- 【記録】** 北原直哉（敬称略）



ベトナムの武道・ボビナムの演武（7日・武道文化セミナー）



宿泊ホテルに設置された大会を知らせる看板



団員を労う高村団長（8日・市内レストラン）



統一会堂（11日・市内視察）



笑みを見せる団員たち（10日・フェアウェルパーティー）



ベトナム派遣事業専用の日本武道館公式 Facebook





(左から) 東佐江子、西山走、小堂利奈、嶋田力斗

# 天皇盃・皇后盃・内閣総理大臣杯 第52回全日本空手道選手権大会 第3回全日本空手道団体形選手権大会

**優勝**

個人組手 **男** 嶋田力斗 (初) **女** 小堂利奈 (初)  
個人形 **子** 西山走 (3連覇) **子** 東佐江子 (初)

第52回全日本空手道選手権大会・第3回全日本空手道団体形選手権大会(主催)全日本空手道連盟)が昨年12月7・8日に開催された。8日には日本武道館で男女の個人組手・個人形の全試合と団体形の決勝が行われた。また、男女の団体組手と団体形の予選は7日に東京武道館で実施された。

男子個人組手は前回大会で3位の嶋田力斗(全空連推薦)、女子個人組手は、7日の団体組手で優勝した京都府のメンバーである小堂利奈(京都府)がそれぞれ初優勝を飾った。

男子個人形は西山走(前年度優勝)が3連覇を果たし、女子個人形は全日本実業団で2連覇の東佐江子(全実連)が初優勝を手にした。

男子団体形は全空連推薦が初優勝し、女子団体形は前回大会準優勝の国士舘大が優勝を決め、昨年の雪辱を果たした。

男子団体組手は岐阜県が香川県との3連覇を阻んで初優勝し、女子団体組手は京都府が4連覇を達成した。

## 男子個人組手

決勝は2022年から24年まで全日本体重別選手権大会優勝で84kg級3連覇の嶋田力斗と、20年から22年まで全日本選手権大会3連覇の嶋山優成(全空連推薦)の戦いとなった。

嶋田は4回戦で昨年3位の小崎友碁(全空連推薦)から勝利を収め、準決勝では昨年準優勝した森優太

(青森県)に5-1で勝利して、勢いそのまま決勝に向かった。

対する嶋山は決勝までの試合は2ポイント以上の差をつけて勝利し、決勝に駒を進めた。

### ◇決勝

嶋田力斗 5-0 嶋山優成

試合序盤、お互いの間合いをはかり、両者落ち着いた立ち上がりとな

った。試合時間残り1分13秒、嶋山が攻めたところを、嶋田がいなして上段突きを決めて1ポイントを取。続いて、嶋山の中段突きが決まきれなかったところで、嶋田はその隙を見逃さず、上段蹴りで3ポイント。立て続けに上段突きも決めて1ポイントを取った。

両者激しい攻防を見せるが、嶋田が勢いそのまま完勝し、初優勝を果

たした。

◎優勝者インタビュー 嶋田力斗



男子個人組手・決勝=嶋田(奥)が上段蹴りを決めて一本



観客の歓声に応える嶋田

「嶋山選手との対戦プランについては」特になかったので、自分のスタイルを貫き通して、自分の組手を出せば良い結果になると思ったので、意識して戦いました。狙っていた蹴りが入ってよかったです。決勝でも得意技である刻み突きが出たので、自分の武器として、今後の大会でももっと活かしていきたいです」

女子個人組手



女子個人組手・決勝＝小堂（左）の上段突きで1ポイント

決勝は2024年全日本団体重別で優勝し、7日の団体組手で優勝した京都府のメンバーである小堂利奈と、24年全国高校選抜女子個人組手で優勝した高松中央高校3年の崎山紬（香川県）との試合となった。

また、前回大会で優勝した永井カナナ（前年度優勝）は苦戦を強いられ4回戦で敗れた。前々回優勝した澤江優月（山梨県）は3回戦止まりとなった。

◇決勝

小堂利奈 9-3 崎山紬

小堂は序盤から間合いを詰めて崎山に対してプレッシャーをかけた。試合が動かず1分を過ぎた時、小堂が素早い上段突きで1ポイントを先取。その後も小堂の上段突きが冴え、7-0とリードを広げた。果敢に攻める崎山に対して、会場からは「むぎ先輩!」と応援が響いた。

試合時間残り26秒、崎山は上段突きで1ポイントを取り返すが反撃もそこまで。小堂が初優勝を飾った。



お互いに健闘を称（たた）え合う

「高校3年生の時に新型コロナウイルスの影響でインターハイがなくなつて、大学でも優勝の経験がありませんでした。大学生活の最後に全日本選手権で優勝できて夢のようです。相手は高校生ということですが、フレッシュに戦つてくると思つたので、隙を作らずに積極的に仕掛けていきました。今後の目標は、世界大会に出場して優勝することです」



◎優勝者インタビュー 小堂利奈

## 男子個人形

予選ラウンドは選手を二つのプールに分けて形をそれぞれが2回演武し、二つの形の平均点が計算される。次に各プールの上位4名が準決勝ラウンドに進出。形を演武し、各準決勝ラウンドの1位が決勝進出となる。

予選ラウンドでは、2024年ワ

ールドカップ男子団体形優勝者の本一将（全空連推薦）、23年世界空手道選手権大会男子団体形で優勝した本龍二（全実連）、東京2020五輪金メダリスト・喜友名諒の同門で修行を積む池田竜晟（全空連推薦）が同じプールで競い合った。

決勝  
◇西山走 スーパーリンペイ47・2点  
本一将 ガンカク 46・8点  
先攻の本は片足立ちになることが多くバランスを取るのが難しいガンカクを演武。大きい動作がある中、軸が乱れずに安定した演武を披露した。後攻の西山は前回大会の決勝でも披露したスーパーリンペイで挑んだ。四方への移動が難しい形である

が、落ち着きが見えながらもスピード感がある圧巻の演武を披露した。西山は前回大会を上回る高得点を叩き出し、3連覇を果たした。

◎優勝者インタビュー 西山走



「相手は同じ年でライバルの本選手だったので、気合を入れて演武をして、勝つことができて本当によかったです。全ての大会で勝つ事を目標にしてきました。来年の世界選手権に向けてもっともっとチャレンジをしていきたいです」



男子個人形・決勝＝西山のスーパーリンペイ



判定の後、労（ねぎら）い合う両者

## 女子個人形

4連覇した前回大会王者の大野ひかるが同大会を最後に現役を引退し、決勝には前回大会2位の東佐江子と2024年SAGA国民スポーツ大会成年女子形で優勝した石橋咲織（九州地区）が残り、どちらが勝っても初優勝となる顔合わせとなった。

### ◇決勝

○東佐江子 パープル 45・2点

石橋咲織 ゴジウシホシヨウ 43・7点

先攻の東は前回大会の決勝でも披露したパープレンを演武。鋭さの中にもしなやかさを感じられる突きを見せる。後攻の石橋は重心を低く保ちながら素早くキレのある演武を披露した。

結果は東が45・2点で勝利を収め、

新女王が誕生すると会場からは大きな拍手が送られた。



女子個人形・決勝=東のパープレン

◎優勝者インタビュー 東佐江子



「前回この場所で、結果的にも内容的にも自分の中で悔いが残る試合となったので、この一年間は自分の形を精いっぱい打ったことで、優勝という結果がついてきたと思います。プレミアリーグに出場するなどの経験値も上がり、自分の強みでもあるダイナミックな形を打つことができました」



判定の瞬間

## 男子団体形



全空連推薦がウンスーを披露



喜びを噛(か)みしめる全空連推薦メンバー(左から、北澤・岡本・菊地)



学連①(国士館大)がトマリバッサイの分解を披露

空連推薦との試合となった。

### ◇決勝

○全空連推薦ウンスー45・9点

関東地区③(群馬県)ゴジュウシ

ホシヨウ43・2点

優勝した全空連推薦チームの3名はベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团として派遣された(詳細は本誌8〜17ページを参照)。

## 女子団体形

女子団体形決勝は、前回大会と同じ国士館大学と駒澤大学との試合となった。

### ◇決勝

○学連①(国士館大)トマリバッサ

イ43・9点

学連②(駒澤大)ゴジュウシホシ

ヨウ42・6点

先攻の駒澤大は技を力強く大きく披露し、分解ではギリギリの間合いで極め技もしっかりと決めた。

後攻の国士館大は序盤、素早くキレのある手刀を見せる。演武後半も3人の動きがシンクロした演武を披露した。

国士館大が43・9点を取って優勝し、昨年の雪辱を果たした。

男子団体組手(5人制)

◇決勝

岐阜県 香川県  
 先鋒 保坂悠斗 0-3 三木統嗣  
 次鋒 豊田陽也 3-1 古川陽大  
 中堅 大滝隆成 3-1 西村悠一朗  
 副将 吉村郁哉 0-1 阪井将太  
 大将 久保悠大 2-2 栗原慧太  
 代表 豊田陽也 9-1 西村悠一朗



男子団体組手・代表戦＝豊田(右)が上段突きを決める



優勝を喜ぶ岐阜県チーム

岐阜県と香川県は両者拮抗した戦いをみせ、同点のため代表戦にもつれた。代表戦は当該試合出場者の中から選ばれるため、岐阜県からは豊田、香川県からは西村が選ばれた。序盤、西村が上段突きで1ポイントを先取るが、すかさず豊田も1ポイントを取り返す。試合時間残り52秒に豊田は均衡を破る一本を決めて、勢いそのままに豊田が勝利。岐阜県が初優勝した。

女子団体組手(3人制)

◇決勝

京都府 山梨県  
 先鋒 小堂利奈 2-0 名取珠里亜  
 中堅 山本文香 2-1 高橋わかば  
 大将 大西照葉 — 澤江優月  
 京都府は前回大会優勝した時と同じメンバーで決勝に臨んだ。京都府は中堅戦で勝負を決めて山梨県に完勝し、4連覇を果たした。



女子団体組手・先鋒＝終盤、小堂(左)が駄目押しの上段突きを決める



京都府チームとエスコートキッズ



優勝を決めた京都府チーム

# 第73回天皇杯全日本相撲選手権大会

## 池田俊（ソディック）が 激闘制し、連覇の快拳



天皇杯を手にする池田

アマチュア横綱の称号をかけた第73回天皇杯全日本相撲選手権大会が昨年12月1日、東京・両国の国技館で全国から68名が参加して開催された。

決勝は、池田俊（ソディック）とトワードルジ・ブフチョローン（日体大4年）の大会史上初となる前回は大会と同じ顔合わせ。試合は池田がブフチョローンを打つ棄りで下し、連覇の快拳を達成した。

### ■決勝

▽池田 俊 ○打つ棄り ブフチョローン  
決勝は前回大会覇者の池田と雪辱を期すブフチョローンが相まみえる注目の対決。池田が立ち合いで変化し、ブフチョローンを土俵際に追い込むも、ブフチョローンが土俵際に池田を突き落とす。一時ブフチョローンに軍配があがるも、審判団から異議申し立てが入り、映像検証の結果、同体で取り直しとなる。取り直しの一番では、池田がブフチョローンに土俵際まで追い込まれるも、驚異的な土俵際の強さでブフチョローンを打つ棄りで制して勝利。連覇を果たした。

決勝

池田俊

●——●トワードルン・フランチヨローン



決まり手 打っ棄り

■準決勝①

▽池田俊 ○突き落とし バヤルボルド  
池田とバットヤツグ・バヤルボルド

ド（日体大1年）の試合は、力強い押しで攻め立てるバヤルボルドを池田が突き落としとして下して勝利した。



池田（右）とバヤルボルドの立ち合い（準決勝①）

■準決勝②

▽ブフチョロン ○掬い投げ 五島雅治  
ブフチョロンと角界入りを明言した五島雅治（拓殖大4年）の顔合わせ。試合はブフチョロンが掬い投げで勝利した。



ブフチョロン（奥）が掬い投げで勝利（準決勝②）



# 石川に元気を届ける連覇

◎優勝Ⅱ池田俊四段（ソディック）



た。去年と比べると接戦や逆転が多かったと思いますが、連覇することができてよかったです」

——選手権を連覇し、歴史に名前を刻んだことについてはいかがですか

「嬉しい気持ちもありますし、改めてすごい人たちと並んで見られるので、身が引き締まる思いです。連覇に恥じない相撲を今後もとっていきたいです」

——この一年を振り返っていかがですか

「相撲に関しては世界選手権も優勝することができ、国体でも12年ぶりに石川県代表として団体戦を制し、選手権で連覇もできたので充実した一年でした」

——石川県の方々へメッセージをお願いします

「自分が活躍している姿を見ていただくことで、被災された石川県の皆様に元気を届けられたら嬉しいですね」

——連覇を果たした今の気持ちを聞かせてください

「周りの人たちからは期待されていたので、しっかりと連覇することができて本当によかったです」

——決勝を振り返っていかがでしたか

「取り直しになったので、気持ちを切り替えて臨みました。ブフチョローン選手は、学生相撲で一番強い選手なので、その選手に勝って連覇できたことを誇りに思います」

——環境が変わっての選手権でしたが、いかがでしたか

「学生の頃は毎日練習していて練習環境も充実していましたが、社会人になって練習量が減ってしまいました」

## 第73回全日本相撲選手権大会（決勝トーナメント）



皇后盃第69回全日本なぎなた選手権大会

# 林田智笑(大阪)が7連覇

——最多優勝記録に並ぶ

【決勝：林田 メー 福岡】

長身の福岡に対し、メンスネと上下に打ち分けながら攻め込む林田。最後は林田(右)が切先を下げながら攻め、福岡がスネを警戒し構えが崩れた瞬間をメンスネで捉えた(写真)



皇后盃第69回全日本なぎなた選手権大会・第24回全日本男子なぎなた選手権大会が12月8日（女子）と7日（男子）、愛媛県武道館（愛媛県松山市）で開催された。日本全国から選ばれた女子51名、男子56名の選手がなぎなた日本一を目指し、激しい試合を繰り広げた。

女子決勝は、林田智笑（大阪）と福岡歩（奈良）が対戦し、林田が延長戦でメンを決め、7連覇を達成した。優勝回数7回は、池見敬子氏（第41、43、44、47、48、50、54回優勝）と並び最多優勝となる。

男子決勝は、増田道仁（兵庫）と松田拓斗（石川）が対戦し、増田がスネとメンを決めて6連覇、7度目の優勝となった。



【準決勝①・林田 判一 三浦】互いに決め手を欠きつつも、林田が先に仕掛け、終始試合の主導権を握った（写真は林田（右）が面を仕掛ける場面）



【準決勝②・福岡 メー 貫井】終盤戦、互いに構え直した場面から福岡がメンに飛び込み一本を先取。試合時間は残りわずかとなっていたが、福岡（左）は貪欲に二本目を狙う姿勢を見せた（写真）

試合は5分間三本勝負のトーナメント戦によって行われた。時間内に勝敗が決しない場合、判定で勝敗を決した（決勝は3分間一本勝負の延長戦あり）。

## □女子

### ■決勝

7連覇に王手をかけた林田と、初出場ながら決勝まで上り詰めた福岡の対戦。福岡は大会6連覇中の林田

に臆することなく、長身を生かした遠間からの大技で攻め、林田は間合いを図りながら応戦する。試合時間が終了する間際、素早く攻め入った林田が飛び込みメンを決め、7大会連続の優勝を果たした。

### ■準決勝

第1試合場では、林田と三浦里帆（愛知）が対戦。両者ともに昨年の7月に開催された第8回世界なぎなた選手権大会（以下、世界選手権）

### ●優勝者インタビュー

#### 林田智笑選手・五段（大阪府）



決勝は、試合時間内でどうにか決めようと思っていたので、最後一本が取れてよかったです。

私は早く当てようと手で打ってしまふところがあるので、世界選手権以降の練習ではしっかりと足で蹴って体を動かして打ち込む一本という

の意識して練習をしていました。

今までは世代が上の先生方が多く出場しており、その先生方を追いかけるような気持ちで試合をしていました。今回は自分よりも年下の選手と当たることも多く、こういった状況の中では自分のやるべきことを明確にして戦わなければいけないので、これまでの大会と今回の大会で違いを感じました。

今日は攻めの姿勢で試合をしていましたが、次は逆に相手を自分の間に誘い込んで試合できるような、また一年頑張ろうと思います。



【3位決定戦：貫井 判一 三浦】

貫井は左右の構えを使い分けながら、流れるような連続技で攻め続けた。終盤戦には三浦の放ったメンに旗が1本上がる場面もあった（写真は貫井〈左〉が面を仕掛ける場面）



全日本なぎなたの形  
（打：鈴木亘〈右〉、仕：関祐介）



直心影流薙刀術（打太刀：野崎房江〈左〉、  
仕太刀：高橋チカ子）



天道流薙刀術（受太刀：木村恭子〈左〉、  
仕太刀：小野由紀子）

## □ 公開演武

決勝で対戦した林田選手は大阪で近いこともあり、よく稽古をさせていただいているので、やはり強いなと思いつつ試合していました。今日の大会でまだまだ課題がたくさんあると思うので、次は優勝を目指して一つ一つ頑張っていきます。

世界選手権の時に、「テーマとして『美しいなぎなたを』ということを生方が言っていたので、勝ちにこだわらず印象に残るような試合や、長物を扱うなぎなたの良いところが出るような試合を、これからも目指していきたいなと思っています。

に出場し、日本の団体優勝に貢献した選手。林田が終始、三浦にペースを渡さず試合を進め、5分間の試合の末、判定で勝利した。

第2試合場では、福岡と貫井みさき（京都）が対戦。世界選手権でも個人3位に入賞したベテランの貫井を相手に初出場の福岡が善戦する。終盤戦、福岡がメンで貫井の打突部位を捉え、一本。その後も試合時間

終了まで攻め続けた福岡が、一本勝ちで決勝に進出した。

◇

■3位決定戦

貫井と三浦の対戦。両者とも1〜3回戦では一本を決め、判定を介さずに勝ち上ってきた。実力伯仲の試合を展開し、両者互角のまま試合時間が終了。判定の結果2―1の僅差で貫井が勝利した。

## ● 準優勝Ⅱ福岡歩選手・五段

（奈良県）

たくさん先生の先生方に支えていただいたものが結果として表れたかなと思っています。今日も常に監督や先輩、後輩がリラックスさせてくれたので、1回戦から過度に緊張することなく、いつも通り落ち着いて試合ができました。

## ● 3位Ⅱ貫井みさき選手・五段

（京都府）

久しぶりに入賞することができ、嬉しく思っています。（3位決定戦で試合した三浦選手は）大学の後輩にもなりますし、世界選手権にも一緒に行ったメンバーだったので、最後はいい試合ができればいいなと思っていました。

# 増田道仁(兵庫)が

# 6連覇

## 男子

### ■決勝

6連覇がかかる増田(道)と松田の対戦。序盤は互いに遠い間合いで構え合い、松田が技を仕掛け、増田(道)が後の先で応じる展開が続く。中盤戦で、にわかに増田(道)が攻勢に転じ、鋭く差し込むようなスネで一本を先取。その後、巻き返しを図る松田が猛攻を仕掛ける中、松田の技が尽きた一瞬の隙を逃さず

増田(道)が攻め込み、大技のメンで一本。力強いなぎなたを見せ、増田(道)が二本勝ちで堂々の優勝を果たした。



### ■準決勝

第1試合会場では5連覇中の増田(道)と、昨年3位の南館日奈太(岩手)が対戦。両者は前回大会の準決勝、世界選手権と試合をし、いずれも増田(道)が勝利を収めている。試合序盤に増田(道)がスネを先取



【決勝：増田(道) スネー 松田】  
一本を取り返すべく猛攻を仕掛ける松田の攻撃が途切れた瞬間、増田(道)(右)が素早く攻め込み、飛び込んでメンを決めた(写真)



【準決勝①：増田(道) スー 南館】  
増田(道)(左)は序盤戦でスネを先取しながらも厳しい攻めや応じ技を繰り出し南館の反撃を許さなかった(写真は両者の攻防)



【準決勝②：松田 コマーメ 増田(良)】  
互いに一本を保持し迎えた終盤戦。引き技を打った増田(良)がメンに飛び込む出ばなを、松田(左)がメンで捉えた(写真)



し、そのまま一本を守り切った増田(道)が決勝に進出した。

第2試合場では、初の準決勝進出となる松田と、前回大会準優勝の増田良明(兵庫)が対戦。序盤に増田(良)がメンを先取したが、松田がコテを決めて追いつく。最後は松田が相打ちのメンを制し、初の決勝進出を決めた。



■3位決定戦

南館と増田(良)の対戦。試合は序盤から連打戦の様相を呈し、互いに一步も譲らない技の応酬が繰り広げられる。南館が増田(良)のなぎなたごと打ち抜いたスネで一本を先取。終盤戦、増田(良)が取り返そうと攻撃を仕掛ける出ばなを南館が再度スネで捉え、勝利。2年連続の3位の座を掴んだ。

【3位決定戦：南館 ススー 増田(良)】

南館が一本を先取し、一本を取り返したい増田(良)がメンに飛び込もうとなぎなたを上げた瞬間、南館(左)が狙い澄ましたスネを決めた(写真)

●優勝者インタビュー



増田道仁選手・四段(兵庫県)

決勝では、序盤にスネを決めて時間に余裕がある中で、守るかも一本取りにいくか迷ってしまい、その中で何本かいいところを打たれてしまいました。そこで、もう一本取り

にいこうと気持ち切り替えて、最後にメンを取ることができました。男子なぎなたも若手から年配の方まで裾野が広がってきて、今日の試合もそういった方々が見ていると思うので、内容の悪い試合はできないなど感じていました。若い選手たちの刺激も受けつつ、自分も理想のなぎなたを求めながら、みんなで男子なぎなたを盛り上げていければいいと思います。

●準優勝Ⅱ松田拓斗選手・二段

(石川県)

初めて決勝の舞台に立って、日本一というものの高さを改めて感じました。今の自分の実力は十分出し切れたと思っていますので、胸を張って帰りたいと思います。来年もう一度決勝に挑めるように、一つ一つの技を高めていきたいと思います。

●3位Ⅱ南館日奈太選手・三段

(岩手県)

昨年は一本取れない試合が多かったのですが、今年はしつかり二本取

って勝ち切る試合が増え、昨年よりも力をつけたことを実感できました。今日は同世代の学生選手も多く出場していましたので、そういった選手たちと切磋琢磨して、上の先生方ともいい勝負ができるようにこれからも頑張ります。



# 武道演武大会

## アンケート調査結果について

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团

ベトナム社会主義共和国派遣日本武道代表团は、昨年11月10日に同国ホーチミン市のグエンズー・スポーツセンターで武道演武大会を開催した。主催は日本武道館と日本武道協議会。その際、現状を把握し、的確な情報収集を行うことよって今後の事業に活かすため、大会後、来場者にウェブ上でアンケートを実施した(回答者257名)。

### 【調査概要】

#### ①年齢

武道演武大会の観客の年齢は「20代」が61・1%と最も多く、次いで、「30代」が23・7%で、20・30代で8割以上を占める結果となった。ベトナム教育産業調査(2021年1



アンケートに協力する来場者。各自の端末を用いて回答した

月)によると、同国の平均年齢は31歳と若いこともあり、それが要因の一つと推察される。

#### ②性別

「男性49%・女性50・2%(未回答が0・8%)」でバランスのよい比率となった。

#### ③在住地域

「ホーチミン市」からの来場者が87・9%で最も多く、遠方からの来場者が少ない結果となった。

#### ④職業

割合が最も高かったのは「学生」で53・3%。次いで、「会社員」が27・2%という結果になった。①と同様の理由と推察される。

- いた武道
  - 「なし」が38・9%で最も高い割合となり、次いで「空手道」が20・1%、「合気道」「柔道」「剣道」がそれぞれ約10%の割合となった。
  - ⑥本大会を何でお知りになりましたか
    - 「SNS (Facebook・Xなど)」が63%と多数を占め、次いで「友人、知人からの情報」が19・8%となった。観客の多くがSNSから情報を得たことが明らかとなり、大会専用Facebookの開設に効果がみられた。
    - ⑦武道大会を見るのは何回目ですか
      - 「初めて」が93・4%と最も高い割合となった。武道経験者は⑤で一定数いることが分かったが、観客が集まるような武道大会は少ないことが推察される。
      - ⑧本大会にお越しいただいた理由を教えてください
        - 「演武を見たい」が30・7%、「武道を」学びたい」が22・6%で合わせて約半数を占めたが、「日本の文化を学びたい」も19・5%あり、日本文化自体への関心の高さも窺えた。
        - ⑨大会に対する満足度とその理由を教えてください
          - 「大変満足」が78・6%、「満足」が21%で、合わせると99・6%となった。理由としては「卓越したパフォーマンス」という意見が最も多かった。
          - ⑩演武時間について
            - 前項同様に「満足」以上が9割という結果であった。
            - ⑪大会の内容について
              - 「大変満足」が77・8%、「満足」が21・8%となったが、「休憩時間を設けてほしい」「武道を体験できる場面を多く作ってほしい」などの要望もあった。
              - ⑫大会のFacebookは「覧になりましたか
                - ベトナムではFacebookの利用者が多いとの事前情報があったため、今大会用に開設した。
                - 「はい」が85・6%で、内容も「大変満足」が73・8%、「満足」が26・2%で、合わせると100%になり、効果的な運用ができたものと考えられる。また、「非常に詳細な情報までアップされている」「大会プログラム等にQRコードが掲載されていたため」アクセスが簡単」「迅速かつ継続的な情報提供があった」との

